



生徒と教師、生徒相互の心の触れ合いを大切に、共感的に理解しあえる人間関係を確立するとともに、主体的・創造的に取り組む態度を育成するため、本校では総合的な学習の時間において「The 二中ミュージカル」に全校生徒で取り組み、学校祭で上演しています。今年は『夢から醒めた夢』に挑戦し、大きな達成感と自信を得ることができました。
(旭川市立旭川第二中学校)

No. 121 (平成 27 年 11 月 2 日)

おもな内容

ページ

おもな内容

随想	1
研修講座寸描	2 - 7
心に残る授業 その71	7
お知らせ・お願い	7
教育講演会	8
研究室だより「今、研究室では」	9
パソコン実技研修講座の紹介	10

随想

学校の音(声)

上川教育研修センター

副所長 小谷 要次



この春、山陰・山陽へ旅に出ました。島根県津和野市から山口県萩市までは一時間半ほど路線バスに揺られて県境を越えました。バスの中で聞こえてくるその土地に住む人たちの話し声が、心地よい音となつて遠くまで旅をしている気分を盛り上げてくれます。

また、山口市にある国宝の瑠璃光寺五重塔に行きますと、夕暮れという時間帯のためか観光客の姿はまばらで静まりかえっています。風の音しか聞こえません。このことが、室町時代に建てられたという歴史の重さを強く感じさせてくれます。幕末から明治にかけて活躍する逸材を育て、この度世界遺産に登録された「松下村塾」では、講義室を眺めていますと吉田松陰の講義をはじめ、門下生たちの議論する音が聞こえてくるような錯覚を覚えます。

さらに、広島市の平和公園では、観光客が鳴らす鐘の音が響き渡ります。普段あまり意識することのない平和のありがたさを感じる音です。

存在そのものを確かにする音。人の心に強く印象づける音。どこかほっとさせてくれる音。今回の旅でこれほど音を意識したことはありませんでした。

さて、学校には、どんな音があるでしょうか？子どもが笑ったり泣いたりする

音(声)はもちろんのこと、ピアノの音であつたり、始業開始のチャイムの音であつたり、ノートに鉛筆を走らせる音であつたり、コンピュータのキーボードを叩く音であつたり、耳を澄ますと多くの音があることに気付きます。

一方で子どもと教師が膝を交えて心の底から会話をしている音(声)が少なくなっていると感じているのは私だけでしょうか。教師が子どもと向き合う時間が十分に確保できないという状況があることは理解しています。しかし、子どもの頑張りを称賛する喜びに満ちた教師の声、子どもの行動や言葉遣いに間違いがあれば、毅然とした態度で叱り、教え諭す時には教師の音が響くぐらいの音は欠かせないと考えています。このような音が少なくなっているのではないのでしょうか。子どもと向き合い、褒めたり、叱ることを避けたり、臆病になつている傾向はないでしょうか。子どもは、先生にもっともつと「話を聞いてほしい」「話しかけてほしい」と願っています。

教師と子どもがしっかりと向き合い、子どもの話を聞き、教師が熱く語りかける。時には厳しく叱り、そして、温かい言葉で諭すという音を学校からなくしてはいけないと思う昨今なのです。

センター日誌

- 7月7日 夏季拡大研究会議
- 7月16日 センター組合教育委員会会議
- 7月31日 道研連夏季所員研
- 7月29日 8月6日 研究室夏季集中研
- 8月18日 センター組合議会運営委員会
- 8月3日 4日 センター組合議会定例会
- 9月3日 4日 道研連渡島大会
- 11月2日 センターだより第121号発行
- ※ 毎週火曜日 定例研究室会議
- ※ 随時 研修講座講師打合せ会議



表現活動を通して、豊かな情操と自尊感情、他者への思いやりの心を育てるため毎年行われている学芸会。生き生きとした児童の発表を通して、本校の教育活動を保護者・地域に発信する貴重な場でもあります。
(鷹栖町立鷹栖小学校)

4 学校経営Ⅰ 6/10

笠井 稔雄 北海道教育大学
教職大学院
旭川校 教授
中村 勝治 (東川中 校長)
早坂 逸人 (西御料地小 校長)
本間 正彦 (中央 校長)

講師Ⅱ



学校経営者に不可欠なリーダーシップや組織マネジメントの在り方、様々な学校課題への対応の仕方について、この講座を通して学ばせていただきました。これからの経営の糧とさせていただきます。ご指導ありがとうございました。
(富良野市立樹海小学校 山本 一人)

研修講座寸描

講座の様子から

5 学校経営Ⅱ 6/11

講師Ⅱ

松永 博一 (当麻中 校長)
和田 明典 (名寄中 校長)
岩田 俊二 (北星中 校長)
川島 政吉 (大有小 校長)



松永校長による講話では、教育再生実行会議の提言や道教委の取組等をご示唆いただきました。最新情報を入手する必要性を改めて感じました。研究協議では、各校の実践が交流され、参考になることが多く、今後の学校運営に生かしたいと思います。
(南富良野町立金山小学校 桑原 久美)

2 特別支援教育 6/12

竹森 邦子 (永山西小 教諭)
櫻田 美樹 (日章小 教諭)
玉置 由香 (北星中 教諭)

講師Ⅱ



二日間に涉り、自立活動に関する理論と実践の具体について学びを深めることができました。今回は小・中学校それぞれの授業を参観させていただき、個の実態や発達段階を踏まえた実践を目のあたりにした貴重な機会となりました。
(美深町立美深中学校 松村 愛里)

6 読書活動 6/12

講師Ⅱ

石ヶ森孝順 (日章小 教頭)
小野 忠紀 (千代田小 教諭)



学校図書館の利用は様々なこと、学習の中では、児童がどのような目的意識で取り組むのかをはつきりさせることが大切であることを再認識させられました。この研修を生かせるよう、もう一度教育課程に目を通したいと思います。
(旭川市立高台小学校 梶田 千晶)

7 書写実技 6/23

辻 昌和 (緑新小 教諭)
矢野 敏文 (北海道教育大学 旭川校 教授)
Ⅱ講師Ⅱ



研究授業・研究協議では、毛筆書写の日常化、見通しによる課題意識の明確化など、大切な視点を学びました。実技では、書くことを楽しみながら、すぐにも子どもに教えられる具体的な技法を教わりました。ご指導いただき、大変ありがとうございました。

(当麻町立当麻小学校 安口 貴之)

8 小学校外国語活動 7/1

岡崎 良昭 (末広北小 教頭)
松藤 珠美 (神楽小 教諭)
Ⅱ講師Ⅱ



小学校外国語活動の授業を進めるにあたって、聞く・耳に慣れる・記憶する・発話するという四つの段階を、単元全体を通して取り組ませる大切さを改めて学びました。有意義な時間を過ごすことができました。

(旭川市立永山南小学校 馬場 智章)

9 複式教育 7/2

石塚 睦 (旭川第五小 教頭)
山上 公洋 (嵐山小 教諭)
Ⅱ講師Ⅱ



リーダー学習やずらし・わたりでの授業の組み立て方など、複式教育の特性を生かした指導法を学ぶことができました。デメリットを克服し、メリットを生かし、個に応じた教育をしようという意欲を高めることができました。

(占冠村立占冠中央小学校 古屋敷あかね)

14 学校事務実務 7/30 7/31

坪野 正和 (北海道教育庁教育職員局 教職員事務センター 市町村立学校手当認定 第一グループ主任)
菅原 直樹 (山部中 事務職員)
高田 典彦 (永山西小 事務職員)
Ⅱ講師Ⅱ



今回の研修講座では、学校事務実務について学びました。給与に関する諸手当届出の留意事項についての講義、事務職員の方々との交流がとても勉強になりました。繋がりを大切に、精進して参ります。ありがとうございました。

(名寄市立智恵文小学校 成澤 隆子)

16 学校力向上対策 8/4

笠井 稔雄
 北海道教育大学
 教職大学院
 旭川校 教授
 山口 真希
 旭川校 教頭
 五十嵐 徹
 (青雲小 教諭)

講師Ⅱ



学校力とは何か、そして、学校力向上のために現在私たちに求められていることは何かを考えさせられました。実践指定校の取組や具体的事例も紹介していただき、とてもわかりやすい講座でした。ありがとうございました。

(旭川市立神楽小学校 三上 大輔)

20 幼小連携教育 8/6



(旭川市立東栄小学校 守屋真奈美)

この講座を通して、子どもたちの健やかな成長のために幼稚園と小学校が連携し、情報共有や交流を行うことの必要性について学ぶことができました。また、意見交流では様々な実践例やご意見を聞くことができ、大変勉強になりました。

藤田由美子
 北海道教育大学
 旭川校 准教授
 川島 一毅
 (向陵小 教諭)
 土井 沙織
 (わかば幼稚園 主任)

講師Ⅱ

21 ICT活用 8/26

長濱 孝令
 (愛宕東小 教諭)
 大西 陵公
 (新富小 教諭)

講師Ⅱ



今までタブレットPCは、教材提示や調べ学習で使うことが多かったのですが、今回の研修で、様々な場面での活用を教えていただきました。特に交流場面での活用は、今後の指導の中ですぐに生かしていきたいと思います。

(旭川市立近文第二小学校 松浦 樹里)

22 技術・家庭科実技 8/26



生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる指導内容について学びました。講義や研究協議では、生徒が生活する中で、問題を自分のこととしてとらえ、よりよくしていくことの大切さに気づかせる必要性をあらためて感じました。

(名寄市立名寄東中学校 安井夕紀子)

川邊 淳子
 北海道教育大学
 旭川校 教授
 佐藤 郁美
 (緑が丘中 教諭)

講師Ⅱ

10 国語科指導 7/28 9/8

Ⅱ講師Ⅱ

上田 祐二 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 北島 裕二 (朝日小 教諭)
 内藤 由季 (永山南小 教諭)
 久須美晶子 (愛宕中 教諭)



「話すこと・聞くこと」において、小・中学校の実践を拝見できたことは、財産となりました。真剣に授業を受けている生徒の姿は、学ぶことの意義を改めて感じました。ありがとうございました。
 (旭川市立愛宕中学校 只石 良太)



15 理科指導 7/31 9/8

Ⅱ講師Ⅱ

安藤 秀俊 (北海道教育大学 旭川校 教授)
 吉澤 重光 (近文第一小 教頭)
 沼田 朋樹 (東光小 教諭)
 鎌田 康裕 (東陽中 教諭)

自然体験活動、環境教育の充実、効果的な身近な教材、科学的なものの方や考え方等授業に役立つ研修になりました。特に、予想をたて結果を検証する大切さを学びました。大変わかりやすく指導いただきありがとうございました。
 (南富良野町立南富良野小学校 大西 悠文)

26 校内研修 9/9

Ⅱ講師Ⅱ

及川 勝也 (東栄小 教頭)
 花本 明典 (東栄小 教諭)
 谷 芳恵 (東栄小 教諭)

校内研修の進め方、研修の在り方や工夫などを学びたいと思い受講しました。活発な校内研修の場に参加させていただきました。日頃感じていた疑問や不安を交流する機会も多く、受講したことで解決の見通しをもつことができました。
 (旭川市立正和小学校 小野由紀子)



17 生徒指導 8/5 9/9

Ⅱ講師Ⅱ

佐々木正道 (西神楽中 教頭)
 福山 誠 (東光小 教諭)
 中枝 直亮 (啓北中 教諭)

子ども達の「個性の尊重」、「自己肯定感の育成」、「人間関係の形成」が、より良い学校生活を送る上で欠かせないことを学ぶことができました。授業実践や豊富な資料等でご指導いただき、ありがとうございました。
 (旭川市立啓明小学校 堀 拓真)

27 体育科実技 9/30

中山 敬史
(永山西小 教諭)

小出 高義
(旭川校 准教授)

北海道教育大学



運動が得意な子も苦手な子も、主体的に生き生きと活動する姿に感銘を受けました。生涯にわたりスポーツに慣れ親しむ姿勢の素地を作ることが、体育科の大きな目標であると改めて感じるとともに、指導の充実への想いを新たにしました。
(上富良野町立東中小学校 大田 千夏)



19 社会科指導 8/6 10/9

坂井 誠亮
(旭川校 教授)
北海道教育大学
高橋 健史
(旭川第三小 教諭)
野原 翔太
(近文小 教諭)
井澤 恒
(六合中 教諭)

問題解決的な学習の課題作りや、ゲストティーチャーを活用した授業を見せていただきました。研究協議では、子どもの「なぜ」や驚きを引き出し、自ら知りたいという意欲に繋げることの大切さを改めて学びました。貴重な時間をありがとうございました。
(中川町立中央小学校 橋本 幸樹)

3 学級経営 5/14 10/13

宮寄 智
(東町小 教頭)
志田 雅人
(神居東小 教諭)
林 富子
(春光小 教諭)
関 健太
(忠和中 教諭)

旭川市立高台小学校 宗像 登

今回の研修講座で学んだことは、子どもが輝くために、教師は明確なねらいをもって学級経営にあたらなければならぬということです。ねらいや願いにより効果的な手段をとることができるのだと思いました。林先生、関先生、講師の先生方、研修センターのみなさん、貴重な時間をありがとうございました。



受講後アンケート回答のお願い

パソコン講座・教育講演会・研究発表会を除く研修講座を受講された皆様に「受講後アンケート」をお願いしております。アンケート結果は、講座運営の成果と課題を把握する大変貴重な資料となっており、趣旨を御理解の上、御協力をいただいております。アンケートの御回答に当たっては、当研修センターWEBページ上で入力してください。

(すでに回答をいただいている方は、再度回答いただく必要はありません。)

☆右記のQRコードを読み取ると、アンケート入力ページに行けます。→

上川教育研修センターWEBサイト <http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>



23 学級活動 8 / 28

佐藤 美鶴 (台場小 教頭)
亀島 秀元 (高台小 教諭)

講師



学級活動は、「いじめの未然防止」「学力向上」「自己有用感を育む」ことに繋がる大切な活動であることを感じました。子ども達の指導に、すぐ生かせるような内容ばかりで、大変有意義な研修となりました。ありがとうございました。

(富良野市立麓郷小学校 名和 勇雄)



24 図工・美術科実技 8/28

講師

名達 英詔 (北海道教育大学 旭川校 教授)
井山 和博 (春光台中 教諭)

授業では、生徒一人ひとりの絵文字への想いと工夫、それを支える題材の工夫と教師の温かい声掛けが感じられました。講義と実技でも、皆さんと体感的に共通事項について考えることができました。貴重な体験をありがとうございました。

(土別市立朝日中学校 近藤実有紀)

13 道徳教育 7/30 9/1

内藤 奏子 (永山南中 教諭)
北村 貴志 (永山小 教諭)
西川 博康 (北門中 教諭)

水上 丈実 (北海道教育大学 旭川校 教授)

講師

講師の先生の講義、小・中学校の授業参観、講座に参加されていた先生方との意見交流を通して、道徳教育についての理解が深まりました。特に、資料分析や発問、発達段階を踏まえた指導の大切さなど、大変勉強になりました。

(旭川市立東五条小学校 石川 桂子)



11 算数・数学科指導 7/29 9/2

講師

久保 良宏 (北海道教育大学 旭川校 教授)
斉藤 孝弘 (六合中 教頭)
辻 彩子 (近文小 教諭)
松林 圭一 (神楽中 教諭)

発問に対して多くの生徒が呟く等「全員参加の授業づくり」を大切にしていました。子どもの思考の活性化を図るため意図的な意見交流場面の工夫がありました。小・中の授業参観により発達段階に応じた指導方法を学ぶことができました。

(旭川市立青雲小学校 貝谷 雅敏)



（美瑛町立美馬牛中学校 瀨口裕太郎）

【講師：田中佳典（美瑛中 教諭）】

自分達が必要としている式の入れ方を解りやすく教えて頂き大変勉強になりました。特によく使う式（VLOOKUP, COUNTIF）については、必要に応じて使えるようになり、今後の保健室業務に生かせると思います。ご指導ありがとうございました。

上富良野町立上富良野小学校 坂部美由紀

出前講座の御活用を

出前講座は、校内研修および地域の教育研修を支援することを目的としています。各学校だけでなく、教育研究団体・サークルなどの要請にも応えます。申込み方法、講座内容の例は下記のとおりです。ぜひ、御活用ください。

申込み方法:「研修講座開催要項」P 32
にあります「出前講座申込書」に必要事項を御記入の上、研修センターへFAXしてください。



【講師】末永みゆき(東町小 教諭)
「文化の違いを理解するように」、
という諭えが心に響きました。子どもをよく知り、生活しやすくなる方法を考えることや、指導方法だけでなく、教師の温かさで子どもが変わることも教えていただきました。ご指導ありがとうございました。
(旭川市立大町小学校 荒井 香織)

タブレットPC (iPad) 貸出しの御案内

現在、上川教育研修センターには9台のiPadがあります。また、研修センターは館内無線LAN環境が整っており、無料で数十台のPC等が無線LANに接続できるアクセスポイントを設置しております。当研修センターを利用した各種講座や各研究団体の研修会等において、タブレットPCを用いた内容で実施されてみてはどうでしょうか。ぜひ御活用ください。



なお、パソコン実技研修講座や出前講座、研修講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、その場合は何卒御了承ください。

- ※ 各学校・部活動等への貸出しにも対応しております。電話でお申し込みください。
- ※ 破損や紛失の場合は弁済していただくことになりますので、十分に御注意ください。

心に残る授業

その⑦



上川教育局義務教育指導班
指導主事
望月 俊 綱

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、社会や職業の在り方そのものが大きく変化する可能性があると思われ、指摘されています。

子どもたちにそのような社会を乗り越えていく力を身に付けさせるためには、教育の在り方も一層進化させる必要があります。

とりわけ、国語科教育においては、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の充実が求められており、そのため、学習過程が課題解決の過程となるよう単元を貫く言語活動を位置付け、言語活動を通して、子どもが主体的に学習に取り組むことが大切です。

私が参観した心に残る授業は、教師の計画的な指導のもと、子どもたちが主体的に学習に取り組む、小学校第三学年の国語科の授業です。本授業では、並行読書で選んだ本

の「心をひかれた登場人物」について「紹介カード」を作成する場面が設定されていました。

教師は、作成した「紹介カード」を黒板に例示し、その日に作成する部分を示しながら、魅力について楽しそうに伝えていました。

課題を確認した後、子どもたちは、教科書教材を何度も読み返ししながら、自分が心をひかれた登場人物の性格とその根拠となる叙述を探し、カードにまとめ、「ほくはね、この〇〇〇は、とても勇気があると思うよ。なぜなら…」と目を輝かせながら、伝えていました。

私は、このように、子どもたちの「大好き」や「伝えたい」という思いを引き出すために、まず、教師が読書に対する楽しさや思いが詰まった「紹介カード」を作成して、子どもたちに紹介するといった単元への意欲を高める導入を工夫するなど、子どもたちの力を引き出すための真摯な授業づくりに、大変感銘を受けました。

今後も、上川管内の各学校において、子どもたちが主体的に自分の思いを表現し、交流し合い、互いに認め合う授業が展開されることを期待しております。

上川教育研修センター 教育講演会

時 平成二十七年八月三十一日 於 旭川市大雪クリスタルホール

「誰もが行きたくなる学級・学校を造る」

講師 広島大学大学院教育学研究科教授 栗原 慎二氏

1 はじめに



かつて、一九七〇年前後の日本の子どものための家庭は品行方正で、世界のモデルとして受けていた。一方で、大学生は七

〇年代安保で大きく揺れ、一九八〇年頃には、高校現場は校内暴力で荒廃していた。私は高校教員として学校教育に、身を投じていた頃である。そして国は、荒れた学校に対して管理教育という対処を行い一時の成功を見せた。一九九〇年代には、いじめの不登校という別な問題が起こり始めた。荒れの現場が高校から中学校に移行し始めたのもこの時期である。現場では、中学校でも管理教育を行う一方で、受容と共感のカウンセリングの考えも広まり、心の専門家であるスクールカウンセラーが配置された。二〇〇〇年に入ると、小学校でも荒れの現象が起こった。いわゆる、学級崩壊である。そんな中、子どもの発達や特性などが注目され始め、特別支援教育の制度が整備された。最近では、福祉的な専門家としてスクールソーシャルワーカーが配置され、不登校の児童をはじめネグレクトなどの家庭問題に対して学校現場の一助となっている。また、数年前には、いじめ防止対策推進法が制定された。そして、今や公立のフリースクールの設置も推進されている。

2 望まれる方向性

(1) これまでの施策から

荒廃が大学から高校、中学校、小学校、家庭と推移したが、これまでの施策は問題が起

こると対処するリアクティブと個別的アプローチ・専門家外注型・経験ベースであった。これは、予防・開発的対処のプロアクティブ・集団のアプローチ・教師の力量形成・ディスタをもつて根拠を明らかにするエビデンスベースが必要である。とはいえ、前者が必要ということではなく、後者と両方を回すシステムが必要と考える。

(2) 総社市の取組から

岡山県総社市での取組は六年目になる。データからも一目瞭然であるが、不登校の出現率・暴力行為・いじめの発生件数は小中学校両方で全国と県平均を下回り、右肩下がりの結果である。この結果は、教師が力で押さ込んだ結果ではなく、教育相談ベースの生徒指導を行った結果である。これは、総社市だけではなく、他の行政地区の学校でも結果として表れている。

(3) この子の為に

ある広島県の荒れた中学校では、ピア・サポートプログラムを導入により暴力行為発生件数が皆無になるとともに、不登校生徒数が激減した。問題行動の多い児童生徒の背景には荒廃した家庭や本人の特質がある。その子たちを前に、学校現場では強い指導に回すべきケアに回すべきか揺れることがある。そこを上手に対処しているのは実は、親である。子どもに厳しく接する時も優しく片目をつむる時もある。親には少しも矛盾を感じない。それは、厳しく叱る時も優しく接する時も、我が子の為を考えているからである。学校現場では、学校の秩序の為に叱るのではなく、「この子の為に」厳しく指導すべきで、生徒指導と教育相談のバランスが大切である。学校全体で行う時、最も大切なことは、「子ども理解」である。「子ども理解」を共有すると、互いに手を繋いで、「この子の為に」ブレのない指導ができる。

3 子どもの実態とピア・サポート、アクセス

(1) 家庭・地域・学校から

人が成長するには安定したパーソナリティ（個人的発達・心理的発達）と社会性（人との関わり）を獲得することが大切である。安定したパーソナリティの獲得には家庭が基盤となる。ところが、少子化の家庭が多く、近年虐待・離婚が増えている。また、社会性の基盤である地域・学校では群れが消失し、遊んでいても個々にゲームを行うなど遊びの変質が見られる。学校ではいじめ・学級崩壊・暴力行為の問題に直面している。幼児期から人間関係が崩壊している子どもたちは、社会的ストレスにさらされながら学校に通っている。このような環境の中で、子どもは安定したパーソナリティと社会性を獲得することができないであろうか。不登校の数は、総社市では二であるが、日本は三・四の市町村が多くあり、中には八の地域もある。もはや、個別対応では間に合わなくなっている。そこで、私たちが開発したアクセスを紹介したい。

(2) アクセスについて

学校でうまくいっているかどうかを生活満足感としてみるのがアクセスである。これは、教師サポート因子（先生とうまくいっているかどうか）、友達サポート因子（友達とうまくいっているかどうか）、学習適応因子（勉強がうまくいっているかどうか）の三つの因子でみる手法で、三つの因子を支えることが毎日楽しい学校生活を送らせるために重要である。

(3) アクセスとピア・サポート

個人の性格特性と、生活満足感との関係に影響するものは、向社会的スキル因子（思いやり）である。実に四六％が向社会的スキルが高いことが毎日楽しいかどうかを決定している。そう考えると、人を思いやる心とスキルをもたせることが教師の大切な仕事である。仲間と学習させることがピア・サポートであり、ピア・サポートでは、思いやりがどういふものなのか、そして、人と関わるスキルをどう学習させることができるかを学ぶことができる。

(4) 集団と集合

社会心理学に、集合と集団という概念がある。集合は単なる集まりで、集団は目的・目

標を共有する組織された集まり。よい集団になればなるほど目的を共有し、信頼で結ばれ、心の触れ合いで形成されている。学校ではどういふ子を育てるのかという目標を共有することが大切である。本来、よい集団の中で育つと自然に身に付く責任感や規範意識などが、今の子どもたちには身に付いておらず、共通行動や相互依存的関係が消失している。ピア・サポートと併せてアクセスを活用した学級経営に目を向けてみる必要がある。

4 アクセスと学級・学校造り

総社市ではアクセスの学級分布表を全職員が分析をすることで、目標の共有化が図られている。市の研修会では、幼・保・小・中・高の先生方が参加し、幼稚園から高校の先生方までがディスカッションすることで、その町の子どもが見えてくる。そして、子どもも理解を共有することで、この町の子どもをどう育てるのかという共通の目標をもった集団ができる。そうしたよい集団の先生方は、自分たちの教育にプライドをもっている。「誰もが行きたくなる学級・学校を造る」と題しているが、一番行きたくなるのは、先生たちである。

5 おわりに

生徒指導と教育相談のバランスの上で、「この子の為に」という話をした。しかし、それだけでは足りない。「この子の為に」指導しても、無理解では意味がない。「子ども理解」が重要である。理解には受容的・共感的理解と客観的な理解がある。子どもの特性を客観的に理解し、同時に受容的・共感的に理解すると、子どもにとつてその先生との関係は安心で安全になる。さらに、親や友人、地域からも同じ理解を得るにはどうしたらいいかということを考える必要がある。そのため、学級経営の技術が必要である。子どもが自分でできる力を育てる。友達同士で支え合う力で育てる。先生が支えて育てる、そういうことを同時にやっていくこと（マルチレバリングアプローチ）が基本となる。自分ではがんばる力、助け合っていく力を育てる生徒指導を行っていただきたい。そのベースは教育相談と子ども理解にある。

今、研究室では… センター所員研究授業が終了！

第16次研究2年次

思考の明確化 ― 何をどのように考えさせるか？

どのような方法と人数で交流させ、どのようにまとめるか？

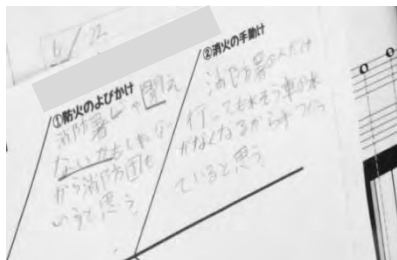


研究員2年目
小学校教員
神楽岡 充彦

小学4年 社会科「火事からくらしを守る」

学習課題を「消防団の仕事はなぜ必要なのか考えよう」と設定し、社会科の特性を生かした3段階の言語活動を実践しました！

言語活動 段階① 個人思考



消防団と消防署を比較し、自分の考えが分かりやすくなるように「お魚ボーン図」を使用しました。

言語活動 段階② 集団思考



消防団と消防署の仕事に関連付け、消防団の必要性に迫るため、ペアでの話し合い活動を行い、集団で交流しました。

言語活動 段階③ 思考のまとめ



自分の考えとゲストティーチャーの話をもとに、消防団の必要性を考えさせました。



研究員1年目
小学校教員
神楽岡 貴弘

小学2年 生活科「いきいきキラキラ生きている」

学習課題を「モルモットが喜ぶお世話は何か考えよう」と設定し、モルモットを飼うために「飼育方法をさらに調べたい！」と思うように3段階の言語活動を実践しました！

言語活動 段階① 個人思考



モルモットのお世話をするために、大切なことは何かを考えました。

言語活動 段階② 集団思考



食べものとすみかについて、今までの経験を基に予想しました。

言語活動 段階③ 思考のまとめ



ゲストティーチャーの話を聞き、飼育方法を詳しく調べたいという気持ちをもちました。

パソコン実技 研修講座の御案内

みなさんは、上川教育研修センターの三階にパソコン室があり、年間十四回の講座を実施していることを御存知でしょうか。

一般講座や各種会議等に出席されている方も、二階までは行ったことがあるけれど、三階までは上ったことがない。」という声が少なくないと思います。
このパソコン室には受講生用のデスク



トップPCが六台と、講師用のデスクトップが一台の、計七台があり、高スペックなマシンで快適にパソコン実技研修を受講していただくことが可能になっています。パソコン実技という性質上、パソコンの台数が限られるため受講枠は六名を基本としています。平均して、受講生六名に対して講師三名の手厚い指導が本講座の最大の特徴です。

講師は上川教育マイコン研究会に所属する先生方に依頼し、最先端をいく内容で、なおかつ受講生のニーズに臨機応変な対応が可能な講座として評価していただいております。さらに、先生方の興味関心が非常に高いタブレットPCを中心に取り扱い講座も開催しております。当

研修センターが所有するiPadの台数に応じて受講枠を九名まで拡大し、今年度におきましては入門編と活用編にレベル分けした講座を各二回ずつの計四回を計画しました。既に終了した入門①・活用①の各講座には受講枠を大幅に超える受講申し込みをいただき、受講者の皆様には少し窮屈な思いをさせてしまいました。講師陣と、タブレットPC講座の今後についてはさらに検討を重ね、授業における活用場面を授業者・学習者の両面から意識した内容へと充実させていきたいと考えております。

表計算は根強いニーズがあり、養護教諭や栄養教諭、また事務職員等、幅広い職種から受講をいただいております。

基本的な講座の流れは、午前中に講師から使用方法のレクチャーを受け、午後、もしくは午後の途中から個々の作品

講座の主なラインナップ

(活用ソフト等の略称)

- ・表計算(エクセル)入門：初心者向け
- ・表計算(エクセル)活用：上級者向け
- ・ホームページ作成(ホームページビルダー)と画像処理(フォトショップ)
- ・プレゼンテーション(パワーポイント)
- ・画像処理(フォトショップ)と動画編集(ロイロスコップ)
- ・タブレットPC入門(iPad)
- ・タブレットPC活用(iPad)

やデータを作成し、その中で出た疑問に講師が個別に対応するというものになっております。

リピーター大歓迎！この講座でスキルアップを果たし、職場に帰って講師役を担っていただきたいと思ひます。

上川管内のICT教育環境の充実に寄与していただけるよう、今後ともどうぞよろしく願ひします。



発行日

責任者
印刷所

平成二十七年十一月二日
上川教育研修センター
〒〇七〇〇〇三六
旭川市六条通四丁目
電話〇一六六二四二五〇一
矢口元晴
谷川印刷株式会社

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。